

福島第二原子力発電所 プラント状況等のお知らせ
(日報：平成 25 年 3 月 8 日)

平成 25 年 3 月 8 日
東京電力株式会社
福島第二原子力発電所

福島第二原子力発電所では、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う津波の影響により、1, 2, 4 号機において原子力災害対策特別措置法の規定に基づく該当事象が発生し、同年 3 月 12 日、内閣総理大臣による原子力緊急事態宣言が発出されました。

その後、電動機等の復旧や残留熱除去ポンプの機能回復等の緊急事態応急対策を実施し、同年 3 月 15 日までに全号機で冷温停止を達成しました。

以後、同対策を継続して実施し、電源供給機能や残留熱除去機能の多重化を図るなど、プラントの安定的な冷温停止の維持に努めた結果、同年 12 月 26 日、内閣総理大臣により当所の原子力緊急事態解除が宣言され、原子力災害対策特別措置法に基づく原子力災害事後対策の実施段階に移行しました。

同対策を実施するにあたり、原子力事業者防災業務計画に基づく復旧計画を策定（平成 24 年 1 月 31 日提出、同年 5 月 31 日改訂 1、同年 10 月 16 日改訂 2、同年 11 月 21 日改訂 3）し、プラントの冷温停止維持に係わる設備等の本設復旧を計画的に実施しています。

本日午後 3 時現在のプラント状況等について、別表および以下のとおりお知らせします（下線部が新規事項）。

○4 号機 原子炉格納容器圧力抑制室点検（水中作業）完了について

4 号機原子炉格納容器圧力抑制室について、平成 23 年東北地方太平洋沖地震の影響を確認するため、平成 25 年 2 月 28 日より水中作業による目視点検を実施します。
(平成 25 年 2 月 27 日お知らせ済み)

平成 25 年 3 月 6 日までに水中作業による目視点検を行なった結果、圧力抑制室内の各設備において、地震の影響による変形・損傷等の異常は確認されませんでした。

なお、圧力抑制室内の壁面、底面、および機器等の表面の一部に、塗装の剥離や錆が認められましたが、いずれも圧力抑制室の機能に影響を与えるものではありませんでした。

(別紙) 福島第二原子力発電所 4 号機 圧力抑制室点検（水中作業）完了について

以 上

福島第二原子力発電所 プラント状況（平成25年3月8日 午後3時現在）

別表

| | | 1号機 | 2号機 | 3号機 | 4号機 | 参 考 |
|-------------------------|----------------------|--|--------------------|--------------------|------------------------|---|
| 原子炉の冷却 | 原子炉の状態 | 冷温停止中 (全制御棒全挿入) | 冷温停止中 (全制御棒全挿入) | 冷温停止中 (全制御棒全挿入) | 全燃料取出完了 (H24/10/24) | ●冷温停止とは、原子炉水の温度が100℃未満で原子炉が未臨界の状態をいう。 ●左記の水温は午後0時現在の温度。 ※全燃料取出完了に伴い、「-」表示に変更 |
| | 原子炉水の温度 | 29.4℃ | 26.2℃ | 27.0℃ | — ※ | |
| | 残留熱除去系（A） | 不待機 | 運転中 | 不待機 | 待機中 | ●残留熱除去系1系列と原子炉冷却材浄化系にて原子炉の冷却を行っている。 ●原子炉冷却材浄化系は、原子炉水を浄化する装置だが、原子炉の冷却機能も有する。残留熱除去系2系統が停止したとしても、本システムにより、原子炉の冷温停止状態を安定的に維持することが可能。 |
| | 残留熱除去系（B） | 待機中 | 待機中 | 運転中 | 待機中 | |
| | 原子炉冷却材浄化系 | 運転中 | 運転中 | 運転中 | 待機中 | |
| 使用済燃料プールの冷却 | 燃料プール冷却浄化系 | 運転中 | 運転中 | 運転中 | 運転中 | ●使用済燃料プールの水温を65℃以下に保つよう、燃料プール冷却浄化系で冷却している。 ●左記の水温は午後0時現在の温度。 |
| | 使用済燃料プール水の温度 | 24.3℃ | 29.3℃ | 28.3℃ | 27.0℃ | |
| 外部電源 | | 受電有 | 受電有 | 受電有 | 受電有 | ●当所の外部電源は、富岡線1号・2号（500kV系）、岩井戸線1号・2号（66kV系）の4回線がある。 |
| 非常用電源 | 非常用ディーゼル発電機（A） | 待機中 | 待機中 | 点検作業中 | 待機中 | ●外部電源喪失時のバックアップとして、非常用ディーゼル発電機2台が動作可能な状態を確保している。なお、非常用ディーゼル発電機は、複数の号機で共用することが可能である。 ●発電所構内には、全交流電源喪失時に原子炉や使用済燃料プールに注水するための電力を供給する電源車を配備している。 |
| | 非常用ディーゼル発電機（B） | 待機中 | 待機中 | 待機中 | 待機中 | |
| | 高圧炉心スプレイ系非常用ディーゼル発電機 | 復旧作業中 | 待機中 | 待機中 | 待機中 | |
| モニタリングポスト (空間線量率の測定) | | ・発電所構内に7基（No.1～7）設置しているモニタリングポスト（環境中の放射線量を測定）の測定値に有意な変動はありません。 ・当社ホームページでモニタリングポストの測定値（空間線量率）を公開しています。 http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/f2/index-j.html | | | | |
| 特記事項 | | ・3号機原子炉冷却材浄化系の電気・計装品等の点検に伴い、原子炉冷却材浄化系を3/3 11:06から不待機としていたが、 <u>同点検終了により 3/7 15:50に運転状態に復帰。</u> ・4号機残留熱除去系(A)のポンプおよび補機設備の分解点検に伴い、残留熱除去系(A)を1/8 9:46から不待機としていたが、 <u>同点検終了により 3/8 11:39に待機状態に復帰。</u> ・1号機残留熱除去系(A)の電源設備取替作業、分解点検等に伴い、残留熱除去系(A)をH24/9/20 10:00～H25/3/21(予定)まで不待機。 ・3号機残留熱除去系(A)の補機設備の点検に伴い、残留熱除去系(A)を2/6 9:40～3/29(予定)まで不待機。 ・3号機非常用ディーゼル発電機(A)の機関および補機設備の点検に伴い、非常用ディーゼル発電機(A)を2/6 9:40～3/29(予定)まで不待機。 ・浜通り電力所が実施する電線点検等に伴い、岩井戸線1号を3/6 6:17～3/8 17:00(予定)、富岡線1号を3/6 6:35～3/8 17:00(予定)までそれぞれ停止。 | | | | |

福島第二原子力発電所4号機 圧力抑制室点検（水中作業）完了について

- ・ 圧力抑制室内の各設備に地震の影響による変形・損傷等の異常は確認されませんでした。
- ・ 圧力抑制室内の壁面、底面、および機器等の表面の一部に、塗装の剥離や錆が認められましたが、いずれも圧力抑制室の機能に影響はありません。

18:38:58 03/01/13

錆

Vent Pipe Inspection @ 243 Degree
2F4 Suppression Chamber Inspection

ベント管

11:09:08 03/01/13

ベント管サポート ベント管

錆

Vent Pipe Inspection @ 183 Degree
2F4 Suppression Chamber Inspection

ベント管サポート

18:57:06 02/28/13

270 Degree 0M x 1Meter
2F4 Suppression Chamber Inspection

圧力抑制室内筒部

16:48:57 03/04/13

RHR-B Strainer Inspection @ 45 Degree
2F4 Suppression Chamber Inspection

残留熱除去系（B）吸込ストレーナ

15:52:54 03/06/13

溶接線

Inspection Of 9.5 Degree Weld
2F4 Suppression Chamber Inspection

圧力抑制室底面

15:19:09 03/04/13

塗装剥離

Coating RHR-B Wall @ 45 Degree
2F4 Suppression Chamber Inspection

残留熱除去系（B）ストレーナ近傍壁面

16:16:43 02/28/13

"R" X-Quencher @ 243 Degree
2F4 Suppression Chamber Inspection

逃し安全弁排気管（蒸気吹出口）

18:13:51 03/06/13

溶接線

塗装剥離

Inspection Of 187 Degree Weld
2F4 Suppression Chamber Inspection

圧力抑制室底面

0°

270°

90°

180°

圧力抑制室底面図（概略図）

【参考】

○ 今回の圧力抑制室点検にて、針金、プラスチック片が確認されました。

○ 機器の健全性に影響を与えるものではありません。

※平成 25 年 3 月 8 日ホームページ掲載[3月7日不適合管理委員会審議分]

URL; <http://www.tepco.co.jp/nu/f2-np/incomp/2012/130307-j.pdf>



針金（長さ約 40cm）



プラスチック片（直径約 2cm）